

## ■県立大学第二期整備について

本学は現在、本館側校舎が老朽化していること、また、国道9号バイパスでキャンパスが分断されていることなど、施設面で大きな課題を抱えています。

このため、将来、本学で学ぶ学生が、快適で生き生きとしたキャンパスライフを過ごすことができる環境となるよう、国道9号北側キャンパスへ校舎・施設を移転統合し、大学の一体化が早期に実現できるよう、皆様の御支援をいただきながら、県への要請活動等に取り組んでまいりました。

これを受けて、本学の設立団体である山口県においては、平成24年3月、具体的に新キャンパスの整備を進めるための「県立大学第二期整備計画」を策定しました。

この第一段階として、平成25年度からは、栄養学科棟と学部共通棟の2棟について整備を行うための実施設計が進められ、平成27年1月から、いよいよ建設工事に取り掛かることとなりました。

## ■桜の森について

一方、第一期整備として建設された本学講堂、看護学科棟周辺には、皆様からいただいた御寄附をもとに、本学の開学60周年記念事業として、平成12年11月から山林や平地に桜を植樹しており、現在、春には満開の桜が一带を彩っています。

しかしながら、北側キャンパスの造成地一带は、元来、新キャンパスの整備のため、全体が工事現場となるものであり、このたび、栄養学科棟と学部共通棟の整備に当たって、県から建設工事の支障となる桜の木27本が示されました。

## ■栄養学科棟と学部共通棟の整備に係る桜の木について

このため、大学では、桜の木の移植を前提として、移植先の現地調査や必要経費等の検討を行いました。今後、第二段階以降の建設工事が続くため、移植場所は極端に限定されることとなります。

また、専門家の意見は、桜の移植は非常に難しく、歩留まり（根付き）が悪いことから、多額の費用をかけて移植したにも拘わらず、枯れたとしても責任は持てないというものでありました。

さらに、今回、県から示された桜の木は27本ですが、あとに続く第二段階以降の建設工事においても、支障となる桜の木が発生することが予想されます。

こうしたことから、すべての桜の木の移植場所の確保は困難であり、また、移植に伴うリスクなども考慮した結果、大学としては、苦渋の選択ではありますが、桜の木を伐

採せざるを得ないという結論に至りました。

#### ■今後の対応について

桜の木には、皆様お一人おひとりの本学に対する愛着が込められていることは十分承知しており、このような事態となったことは大学としても非常に残念であり、当時の見通しが甘かったことについて、率直にお詫びいたします。

その上で、新キャンパスを桜の森で彩りたいという思いは、大学も皆様と同様ですので、新キャンパス完成の暁には、開学60周年記念樹に替わるものとして、また、本学の新たな未来への第一歩を象徴するものとして、若い桜の苗を新たに植樹し、新キャンパス一面を桜の花で満たしたいという思いです。

また、今回、このような結論に至りましたのは、現在の看護棟の背後に広がる造成地を最大限に活用し、各学部・学科棟が中庭を囲んで一体感を醸し出す素晴らしいキャンパスにすることを目指して、設計を進めてきた結果でもあります。

大学としては、本学の将来に目を向け、皆様と一緒に、学生の笑顔があふれるキャンパスの早期実現を目指してまいりますので、何卒御理解いただきますようお願いいたします。